熊本大学
Kumamoto University

～地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する ～

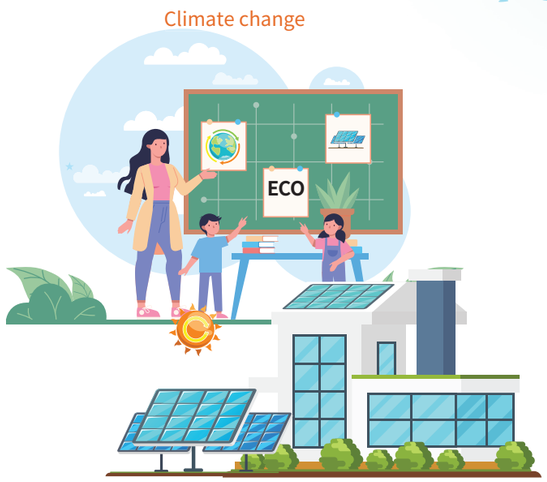
eco act

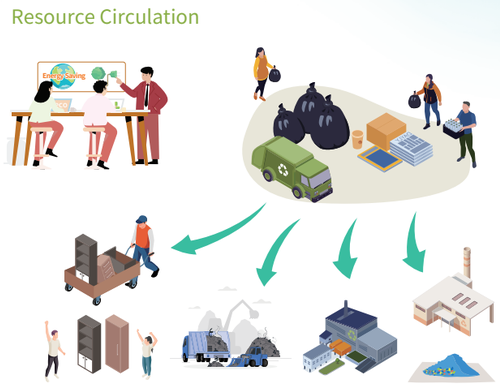
Kumamoto University Environmental Report 2025

2025

2024年4月～2025年3月

概要版





「えこあくと」とは？

熊本大学が取り組んでいる「エコ・キャンパス」の実現と持続的な環境改善を推進するための様々な活動をまとめた環境報告書が「えこあくと(eco-act)」です。毎年9月に、1年間の環境配慮活動等をまとめています。地域と国際社会に貢献するという本学の理念のもと、すべてのステークホルダーとのコミュニケーションツールとして、わかりやすい、読みやすい、充実した報告書を目指して編集を行なっています。

えこあくと
本誌はコチラ

https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/eco_act

TOPMESSAGE トップメッセージ

“熊本ならでは”の特色ある教育と研究を通じて社会に貢献します

2025年9月
熊本大学長　小川 久雄

ここに熊本大学環境報告書「えこあくと2025」を公表いたします。昨年度に行った環境に配慮する活動を分かり易くまとめました。昨年度公表しました「えこあくと2024」においてデザインを一新しましたが、今回も同様の構成で編集しており、読者の皆様に読みやすいように絵や図を多く取り入れています。熊本大学では、“熊本ならでは”の特色ある研究が展開されています。マグネシウム、化学、生命科学をはじめとして、半導体、水循環や減災、パルスパワーの領域で学問の発展や技術開発、社会システムの構築を行っています。

熊本大学では、「環境理念」と「環境方針」に従って、施設・環境委員会と環境安全センターが連携して、エコ・キャンパスの実現を目指して構成員一同で環境に配慮する活動を行ってきました。水の使用量は、昨年度と比較して約1.1%削減しました。可燃物排出量（事業系一般廃棄物）も昨年度と比較して約6.5%削減しました。この他にもコピー用紙の購入量は、昨年度と比較して約5.5%削減しました。リサイクルが可能な廃棄物として、古紙類は昨年度と比較して約2.5%増加しました。アルミ缶やペットボトルなどは昨年度と比較して1.1%増加しました。これらの活動だけでも、熊本大学のエコ・キャンパスに向かって着実に活動していることが分かります。

昨年度の「えこあくと2024」では、水資源・生物多様性というキーワードを切り口にして、本学で行われている研究の一例をご紹介いたしましたが、今年の「えこあくと2025」では、資源循環というキーワードを切り口にして、本学で行われている研究の一例をご紹介します。

熊本大学は、「常に情報を発信し続ける大学」、「常に外から見える大学」、「常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学」を目指し、挑戦を続けます。

この度、新たな施設として、半導体の研究に欠かせないクリーンルームを備え、企業等とのオープンイノベーションによる共同研究を行う研究棟「SOIL（ソイル：Semiconductor Open Innovation Laboratory）」と情報融合学環等で使用する講義室・演習室等を備えた教育棟「D-Square（ディースクエア）」を建設しました。

今後ともご支援、ご協力のほどどうかよろしくお願い申し上げます。

環境マネジメントのイメージ

熊本大学施設部施設マネジメント課
環境・エネルギーマネジメント担当
〒860-8555熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39-1
TEL. 096-342-3223 / FAX. 096-342-3220

えこあくと2025　概要版

発行/ 施設・環境委員会
編集/ 環境報告書編集専門委員会

資源循環というキーワードを切口にした

研 究 紹 介

研究の詳細はコチラから

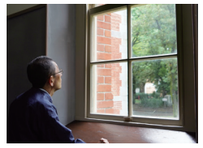
https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/eco_act

1 日本の自動車リサイクルの現場では、様々な国の外国人がビジネスをしています

QRコード インタビュー動画
https://youtu.be/mD3w_FgrhCE

大学院人文社会科学研究部（法学系）環境安全センター長 **外川 健一** 教授

乗らなくなった自動車は中古車としてリユースされたり、部品としてリサイクルされたりします。廃車後に破砕され、後に残ったシュレッダーダスト（自動車破砕残渣）をいかにリサイクルするかが、日本の自動車リサイクルの命題となっています。自動車リサイクルに関する研究をしているのが外川健一教授です。



2 建築現場で木材をリユースする「土壁」に新たな可能性も

QRコード インタビュー動画
https://youtu.be/L5lH10IZiCs

大学院先端科学研究部（工学系） **黒岩 裕樹** 准教授

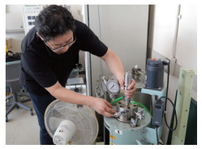
木造建築は小規模が中心でしたが、最近では中規模、大規模の建物にも広がっています。黒岩構造設計事ム所（熊本市）の顧問も務める黒岩裕樹准教授は、大阪・関西万博のポーランド館の構造設計を担当するなど、実務経験が豊富です。建物の解体後に木材をリユースする研究に取り組んでいます。

3 食品加工残渣から有効成分を回収「ごみゼロ社会」を目指す

QRコード インタビュー動画
https://youtu.be/vK1cKBiNR0I

産業ナノマテリアル研究所 **佐々木 満** 准教授

ミカンの搾りかすなどの食品加工残渣や間伐材などの農林水産資材から、有効な成分を回収して医薬品や化粧品の素材として展開し、「ごみゼロ」を目指す。そんな研究に取り組んでいるのが、産業ナノマテリアル研究所の佐々木満准教授です。



4 土器をリサイクルしていた縄文人 遺物から当時の人びとの生活に触れる

QRコード インタビュー動画
https://youtu.be/DxU86xLX8VM

埋蔵文化財調査センター **山野 ケン陽次郎** 助教

埋蔵文化財調査センターは熊本大学キャンパスの敷地に埋蔵されている遺跡の発掘調査をしています。これまで土器や甕棺墓、人骨などさまざまなものが出土しました。中には土器をリサイクルしたとみられる痕跡も見つかったそうです。これらの調査をしているのが山野ケン陽次郎助教です。

「エコ・キャンパス」の実現を目指し、様々な取組を行なっています。

● 2024年4月～2025年3月の環境に関するデータ

分類	温室効果ガス（気候変動）							
項目	エネルギー投入量	LPガス	灯油	電力	都市ガス	温室効果ガス	A重油	ガソリン
前年度比	1.39 % ↑アップ	3.4 % ↑アップ	2.5 % ↑アップ	0.9 % ↑アップ	1.5 % ↑アップ	3.5 % ↑アップ	5.3 % ↑アップ	24 % ↓ダウン

分類	水資源		資源循環				
項目	水の使用量	総排水量	紙資源購入量	古紙種	不燃物	リサイクル原料	照明器具類購入量
前年度比	1.1 % ↓ダウン	4.0 % ↓ダウン	5.5 % ↓ダウン	2.5 % ↑アップ	11.1 % ↑アップ	1.1 % ↑アップ	40.4 % ↓ダウン

化学物質（PRTR届出量）		
排出量（合計）	廃棄物移動（合計）	下水道への移動（合計）
420 kg	3,600 kg	1.3 kg

汚染予防

● 特別管理産業廃棄物	
水銀含有器具類	8 kg
感染性廃棄物	545.2 トン

● 産業廃棄物	
繊維・木・竹くず	2.4 トン
金属くず	226.8 トン
ガラス・陶器くず	1.4 トン
（大型ゴミ含む）廃プラスチック類	245.2 トン

実験廃棄物 ● 実験系の有害危険廃棄物	
実験系可燃物	19.8 トン
実験系不燃物	3.2 トン
薬品瓶	2.1 トン
薬品缶	2.2 トン
廃エチジウムブロマイド等	75 kg
不用薬品	1.5 トン
実験廃液	56.7 トン

● 生活系の有害危険廃棄物	
廃蛍光管	1.2 トン
廃電池	1.3 トン
廃鉛蓄電池	0.4 トン
スプレー缶・ライター	0.1 トン

過去5年間の経年変化データやその他のデータについては本誌をご覧ください。

https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/eco_act